

成果の説明書

(氏名)	矢野修一	(学部)	経済学部
1 重要事項			
◇翻訳（共訳）への取り組み；			
<p>E. Helleiner, <i>States and the Reemergence of Global Finance: From Bretton Woods to the 1990s</i>, Ithaca and London: Cornell University Press, 1994. の翻訳作業を共同で進め、先日脱稿した。今秋、法政大学出版局より出版の予定。</p>			
◇平成 26 年度「群馬県高大連携フォーラム」にて「これからの日本における『高大連携』の重要性」報告（高崎経済大学図書館ホール、2014 年 10 月 20 日）；			
<p>「大学全入時代」とは「大学中退者 6 万人時代」「大卒ニート 3 万人時代」でもあるという現状認識のもと、大学のユニバーサル化、日本経済・社会のグローバル化がもたらす諸問題に高校・大学が連携して取り組む必要性と連携の具体的手法を報告。</p>			
◇京都高大連携研究協議会・第 12 回「高大連携教育フォーラム」（2014 年 12 月 5 日、キャンパスプラザ京都）での講演；			
<p>京都高大連携研究協議会（京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府私立中学高等学校連合会、京都商工会議所、公益財団法人大学コンソーシアム京都）主催の高大連携教育フォーラムにて「高経大＋高経附『高大コラボゼミ』—双方向的高大連携の試み」を報告。ディスカッションでパネラーを務める。</p>			
<p>報告内容は、京都高大連携研究協議会・第 12 回高大連携教育フォーラム『レジュメ・資料集』61－69 頁、同『高大接続と学力形成—達成度テスト（仮称）について考える報告集』14－15 頁、所収（京都高大連携研究協議会 HP 参照）。</p>			
◇高経大学生と高経附生徒による「高大コラボゼミ」の企画および指導；			
<p>2010 年度、2011 年度、2012 年度、2013 年度に続き、日本企業のケーススタディを柱とする「高大コラボゼミ」を企画し各種指導を行った。経営支援 NPO クラブの支援を仰ぎつつ、学生・高校生による日立製作所、KYB、コクヨ、全国農業協同組合連合会、清水建設などの訪問・インタビューをアレンジし、2014 年 9 月 13 日の成果発表会につなげた。</p>			
<p>成果発表会当日は、高経大・高経附の現役大学生・高校生のほか、コラボゼミを経験した両校卒業生、高・大教職員、保護者、一般市民、マスコミ関係者、高経附進学希望の中学生親子等、数百名が出席した。</p>			
<p>高大コラボゼミの取り組みは、昨年度同様、マスコミでも取り上げられた。</p>			
◇『高経大＋高経附 高大コラボゼミ 2014 年度成果報告書』（2015 年 3 月 3 日刊）の編集；			
<p>2014 年度の高大コラボゼミに取り組んだ大学生・高校生の感想を中心に、高経大学長、高経附校長、高・大それぞれの連携担当教員、成果発表会来場者のコメント、成</p>			

果発表会資料などを成果報告書としてまとめた。関係各方面に配付されたほか、2015年度のオープンキャンパス等でも配られる予定。

◇高崎経済大学矢野ゼミナール卒業論文集『経済学研究年報』第22号（2015年3月25日刊）の監修および編集；

1994年3月創刊以来、『経済学研究年報』の監修・編集を継続。2014年度も総勢15名の卒業論文の執筆を指導し、340頁超の卒業論文集を完成させた。印刷・製本された卒業論文集は、本人のほか、保護者やゼミの後輩らに配付された。

2 その他の事項

◇高崎経済大学附属高校「学校評議員」としての活動；

学校評議員として、高経附の運営に関する評議に加わり意見を述べた。

◇高崎経済大学附属高校「顧問」としての活動；

高経大と高経附の各種高大連携事業をアレンジするとともに、文部科学省「スーパーグローバルハイスクール」プログラムの実施・運営に協力。

◇群馬県教育委員会「平成26年度高大連携推進協議会委員」として、群馬県内における高大連携のあり方について協議。

◇高崎経済大学経済学会長としての活動；

経済学会長として、正会員総会・理事会の開催、『高崎経済大学論集』刊行（年4回）、学術講演会の開催（年4回）、『Intro』発行等を主導。

◇群馬県立女子大学「教員間授業参観意見交換会（レビュー）」（2014年12月10日、群馬県立女子大学）に学外パネラーとして参加し、コメント・意見交換。

◇高崎経済大学附属高校「平成26年度スーパーグローバルハイスクール（SGH）発表会」（2015年3月18日、群馬音楽センター）の参観・講評。SGH運営協議会にオブザーバー参加。

3 次年度以降の計画・抱負

エリック・ヘライナー著／矢野修一他訳『国家とグローバル金融』を早期に出版するとともに、国際政治経済学の研究を進める。これまでどおり、学生の教育に尽力する。